



いつも元気に笑顔で働くミツを教えてもらって、笑顔の「匠」の素顔に迫るコーナーです。ここでは、日々の業務や職種についても詳しくご紹介いたします。

Group photo

シリーズ第4回 調剤課
今回は、調剤課に勤務する薬剤師の神山さんにお話をうかがいました！



薬剤部・調剤課について

当院には現在32名の薬剤師が勤務しております。薬剤部には調剤課、製剤課、薬品供給管理課、薬剤情報指導課の4つの課があります。そのうち調剤課では医師の処方せんに基づいて、外来および入院患者さまの内服薬・外用薬の調剤を行っています。外来は院外処方率が約84%であり、入院の調剤が中心となっています。

当院での役割は？

調剤課では、処方された薬の量、飲み方や飲み合わせなどが適切かチェックしてから調剤します。必要に応じて医師へ問い合わせをし、適切な治療が行えるようサポートしています。当院ではPDA（バーコードリーダー内蔵携帯情報端末）を使用した調剤支援システムを導入し、調剤の際、処方せんと薬のバー

コードを照合させることで、誤調剤を防ぐ取り組みを行っています。また、5番窓口横にある「お薬相談室」では薬についての相談も随時行っています。

調剤課での自分の役割は？

調剤は薬剤師が処方せんを見て薬を取り揃え、別の薬剤師が鑑査をするダブルチェックで行っています。私は鑑査に入ることが多く、鑑査は患者さまに薬をお渡しする前の最終チェックに当たるので、気を引き締めに行っています。

円滑に業務を行うため、忙しい時でも周りへの目配り、気配りを忘れないように心がけています。また、先輩や薬学部の実習生の指導に当たることがあります。

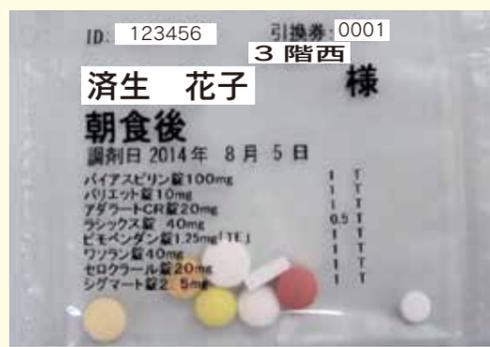
一包化調剤について



正しい薬が入っているか、錠剤を一錠ずつ見て確認します



自動錠剤分包機で一包化調剤をしている様子



分包紙には患者さまのお名前、薬の飲み方、種類が印字されます

錠剤やカプセル剤を飲み方ごとに、一つの袋にまとめることを一包化と言います。薬の種類が多く飲み方が分からなくなってしまう、手が不自由で薬を取り出すことが難しい、という場合にとっても便利な方法です。しかし、薬によっては湿気や光に対して弱いものがあり、一包化できない場合もあります。また、薬を取り出して袋に入れる作業が増えるため、待ち時間が長くなる場合があります。



神山さんのある日のスケジュール



- 8:30 出勤
外来・入院の調剤
- 12:00 休憩
- 13:00 外来・入院の調剤
薬と一緒に渡す「患者さま用お知らせ用紙」の整理
入院返却薬の整理
- 17:30 当直の薬剤師に引き継ぎ
退勤
勉強会などに参加

疑義照会について

医師の処方せんに疑問点や不明点がある場合、薬剤師が処方医に問い合わせ確認することです。薬剤師法第24条に「その疑わしい点を確認した後でなければ、調剤してはならない」と規定されている、薬剤師の重要な仕事のひとつです。



マイ★スターに一问一答！



かみやま せんな 神山 茜奈 さん

Q. この職種を目指したきっかけは何ですか？

A. 薬剤師の母の影響で、小さい頃から薬やこの職業が身近なものでした。高校生の頃化学が好きだったので、薬学部への進学を決めました。

Q. 趣味は何ですか？

A. お菓子作り、裁縫、山登りです。

Q. 気分転換したいときはどうしていますか？

A. 友達に会ったり、景色のきれいなところに出かけたりします。

Q. 今後の目標・意気込みをどう感じますか？

A. 少しでも地域の方の役に立てればと思い、地元の病院に就職しました。まだ未熟な私ですが、知識と経験を積んで患者さまの治療をサポートしていきたいです。